



特定非営利活動法人

## With優 (ウィズ ユウ)

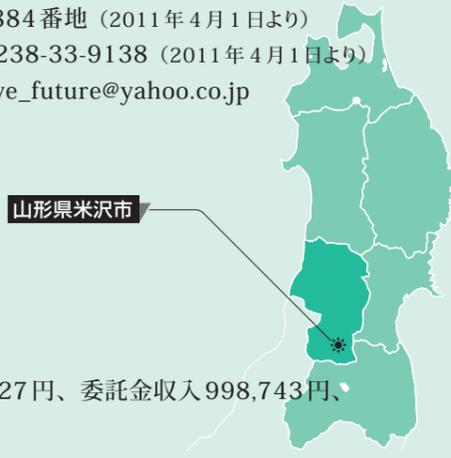
### 個に合わせたプログラムで、笑顔広がる地域づくりへの挑戦

所在地…〒992-0075 山形県米沢市赤芝町字川添 1884 番地 (2011年4月1日より)  
TEL…0238-33-9137 (2011年4月1日より) FAX…0238-33-9138 (2011年4月1日より)  
URL…http://www.with-yu.net E-Mail…share\_love\_future@yahoo.co.jp

1

#### 団体の概要

代表者名…白石祥和  
設立年月…2007年5月 認証日…2009年9月9日  
有給スタッフ数…常勤/7名、非常勤/3名  
事業規模(09年度決算収入)…7,908,113円  
(内訳:事業収入4,413,843円、会費収入1,055,527円、委託金収入998,743円、助成金収入1,440,000円)



山形県米沢市

#### 活動の目的・趣旨

学校に行けない子ども達、行かない事を選択した子ども達、今の社会の中で生きにくさを抱えた青少年に対して、生活、学習支援を通しての復学・転学支援、及び社会的自立支援に関する事業を中心に、地域に住む子ども達、大人が自分らしさを大切に、生き生きと幸せに生きる事、地域に笑顔が広がる事、優しい地域社会づくりに寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

代表の白石氏は、社会人になってからの勤務経験、失敗や苦しみ、友人の死など多くの経験から、自らの生き方や社会人としてのあり方を考えた。そこで、「地域に笑顔を広げよう」という思いから、地元米沢に帰郷し、中学校からの友人である森氏とフリースクールの設立を決意した。

2007年7月からフリースクール開設に向けて、米沢市内約7,000軒の家々を一軒一軒訪問し、自らの思いを込めたチラシを渡しながらかつてフリースクールについて話をした。そして、2007年5月に、フリースクールの理念に賛同した11名の会員と共に任意団体With優を設立し、2009年9月にWith優をNPO法人化した。

#### 主な活動内容

##### ①フリースクール

体験学習を通じて、コミュニケーション能力や社会性を身につけることを目的とするフリースクールの運営。

##### ②カフェレストラン

ジョブトレーニングの実践の場、地域とのつながりの場として、手作りによるメニューを提供するレストランを運営。

##### ③「置賜(おきたま)若者サポートステーション」の運営

就職や進学を考える15歳から40歳までの方を対象に相談やジョブトレーニング等による就労支援を行う。

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 フリースクール

#### フリースクールの授業内容

With優は、子どもや青少年の復学・転学・社会的自立支援を目的にフリースクール運営している。フリースクールは、毎週月曜日～金曜日、午前9時～午後4時まで開校している。

1日の中で最も活動時間が多いのは学習時間である。学習時間では一人ひとりがそれぞれの能力、ステップに応じて学習を行い、知識を身につける時間を設けている。例えば、高卒認定試験や大学受験まで対応した学習支援を行っている。また、学習時間以外にも、農業体験や週1回のスポーツの時間、修学旅行など様々な企画を実施している。



教室にはたくさんの写真が掲示されている

#### コミュニケーションや社会性を身につける場

昼食作り、農業、水汲み、薪割りなど、生活全般における仕事は、生徒がスタッフと共にやっている。フリースクールは学習の場だけではなく、様々な年齢の人と関わることによって、コミュニケーション能力や社会性を身につける場にもなっている。

子どものなかには勉強に拒否感を持つ子どももいるが、学習以外にも、それぞれが自分の役割を持って参加し、生活の中にある小さな喜びをかみしめることができるようにしている。

#### 寮を通じてさらなる教育効果を図る

2007年にスタートした当初の対象は、小学生と中学生だったが、現在は中学生と高校生を中心とした10名の若者に対してサポートを行っている。2011年1月現在のスタッフは6名。2009年からは雇用対策事業も活用し、スタッフを雇用している。事業として独立して行うのは厳しいが、継続雇用を目標としている。

また、2011年度からは、広い施設に移転してフリースクールに併設した寮を作ることを計画している。現段階での寮の定員は3名くらいの小さなものだが、試験的にチャレンジする予定である。

### 事業名称 カフェレストラン

#### ジョブトレーニングの実践の場としてのカフェレストラン

毎週土曜日には、フリースクールやサポートステーションの利用者が調理から接客までを行うカフェレストランを運営している。営業時間は10時から17時まで、釜焼きピザやパスタ、デザート類など、すべて手作りで提供する。利用者にとって、カフェレストランはジョブトレーニングの場になっている。

#### 地域の交流の場としての機能も担う

また、相談に行きづらいとためらっている人には、まずレストランに来てもらい話を聞くようにしている。レストランで繋がりをつくって足を運んでもらい、そこから個別の支援に結びつく例もある。

地域の人や就労してからも遊びに来てくれる利用者など、カフェレストランには毎週20名から30名の方が来店する。居場所づくりとともに、地域に触れ合う交流の場となっている。



釜焼きの手づくりピザ

## 「置賜（おきたま）若者サポートステーション」の運営

「置賜若者サポートステーション」は、山形県で2番目の「地域若者サポートステーション」（以下、サポステ）として、2010年6月からスタートした。サポステでは、長い間仕事に就いていない人や、自宅に閉じこもりなかなか社会に出られない若者、学校に行けない青年のために、厚生労働省から委託を受けて、相談やジョブトレーニング、さまざまな自立支援プログラムを通し、就労支援、復学支援を行っている。

### 利用者に合わせた支援活動

プログラムは、個別相談を中心に就職セミナー、ボランティア体験、農業体験、復学支援など、利用者に合わせた支援を行っている。また、市街地で行う週2回のサテライト相談や、月2回の出張相談会も行う。

2010年6月から12月には、1,700名（延べ人数）の方が利用者として来所し、セミナー参加者は約700名（延べ人数）だった。また、サポステには、2010年12月末現在80名が登録しており、そのうち就労など進路が決定したのは22名である。応援企業や商店は地域に100社以上あるが、就労支援を通じて働き始めた人もいる。



農業体験をする子どもたち

## 3 事業の成果と課題

### 地域にネットワークを広げる

全体の事業を通して意識しているのは、地域に分け隔てなく理解してもらい、支援を増やすことである。学校に行けない人だけではなく、学校に行っている人も参加できるプログラムを実行している。地域に住む子どもたちも大人も、自分らしさを大切に、地域に笑顔が広がる、優しい地域社会づくりに寄与することを目的としている。

米沢市内で不登校・ひきこもりを支援する（特活）から・ころセンターとも連携を進め、毎週1回の情報交換等を行うなど、地域にネットワークも広がっている。

現在ボランティアとして活動に参加するスタッフは5名前後おり、支援会員は50名である。支援会員に活動に対して足を運んでもらいたいとの思いから、毎月ニュースレターと一緒にカフェレストランの食事券を送っている。また、新たな人脈、ネットワークづくりのためにコンビニやスーパーに当法人のパンフレットの設置を依頼しており、現在は、米沢を中心に300カ所くらいに設置場所が広がった。活動がたくさんの人に支えられて大きくなったことをうれしく思っている。

### 企業との連携が進む

助成金の獲得を通じて、新たな支援も広がった。2010年より、自分たちで作ったクッキーやケーキ、規格外で出荷できない農家の野菜などを買い取って販売しているが、ネットトヨタ山形（株）からは販売所のスペースの提供を受けた。さらに、活動が県内においてテレビ紹介されたり、地元の新報に活動が掲載されるなど、メディアの掲載事例は年々増えており、活動が広く知られるようになってきたと感じている。

## 子どもの状況にきめ細やかに対応することの難しさ

フリースクールを卒業した生徒との繋がりは今もあるが、社会に出て人間関係でつまづく生徒も少なくない。生徒の性格も、悩みも様々で、マニュアルに沿って支援できるものではなく、スタッフが迷うことも多い。社会復帰の過程やゴールも人それぞれだ。どこまで支援できるか探りながら、悩みながら運営している実態である。「これから登録者が増えるにつれて細やかな対応が難しくなるかもしれない」という点が現在の悩みでもある。

### スタッフの育成と雇用継続が課題

With優の特徴の一つに、スタッフの平均年齢の若さがある。代表をはじめ、理事、スタッフのほとんどが20代と30代である。利用者に近い目線で支援できる、という強みはあるが、人生経験不足などから不安を抱えることもある。現在は監事が心強い相談相手となってきているが、スタッフの相談に乗ってくれる人がもう少し欲しいとも考えている。

また、財政状況から、スタッフとの雇用契約を単年度でしか結べないことも課題である。

## 4 今後の展望

### 地域に根付いた繋がりの拡大

長期的な目標としては、子どもや若者が夢を持てる場を提供していきたいと思う。米沢市は静かでのどかな地域なので、地域の温かな繋がり・地域づくりを実践していきたい。また、その繋がりは広域で展開するのではなく、米沢市に根付いた形で広げていきたいと思っている。

山形県内には、若者支援機関が少なく、当法人を除いてフリースクールがない。一つの事を継続して行うということは簡単なことではないが、できる限りフリースクールを継続し、若者支援をしていきたい。

また、サポステには様々な障害により一般就労が困難な若者や、一度社会に出て、馴染めずに戻ってくる人も多い。そこで今後、利用者のステップアップの一つとして、サポステ独自に地域事務所と連携を図り、新しい雇用創出に挑戦していきたい。

（ヒアリング対象者：代表理事 白石祥和氏）



これまで数多くの助成金に応募してきた。

（財）助成財団センターのホームページ（<http://www.jfc.or.jp/>）や、そこで発刊している助成金ガイドも購入し、参考にしている。しかし、最も有効なのは行政に足を運ぶことである。顔の見える関係で情報を集めるのが一番効果が高い。2009年からはNPO法人化したことで、大きな助成金や委託も受けやすくなっている。

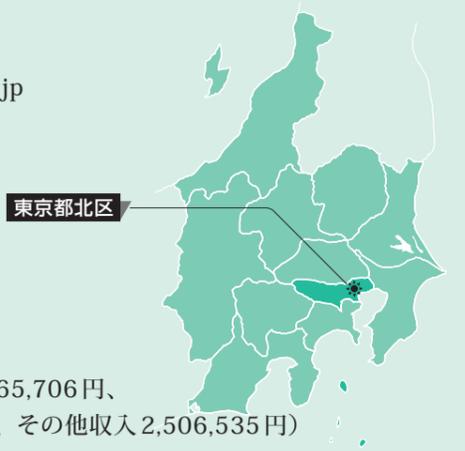


特定非営利活動法人

# 東京シューレ

## 学校だけが育つ場ではない

所在地…〒114-0021 東京都北区岸町 1-9-19  
TEL…03-5993-3135 FAX…03-5993-3137  
URL…http://www.shure.or.jp/ E-Mail…info@shure.or.jp



### 1 団体の概要

代表者名…奥地圭子  
設立年月…1985年6月 認証日…1999年11月5日  
有給スタッフ数…常勤/14名、非常勤/8名  
事業規模(09年度決算収入)…116,700,277円  
(内訳:会費・入会金収入3,700,000円、事業収入95,765,706円、助成金等収入6,414,502円、寄付金収入8,313,534円、その他収入2,506,535円)

#### 活動の目的・趣旨

フリースクールの運営を中心に、学校に行っていない子どもとその親を支援する様々な活動を通して、不登校の子ども及び不登校を経験した子どもと、学校外の学び・交流を求める若者の成長と生活の権利を保障・拡大し、子ども主体の教育のあり方を創造・発展させ、学歴社会の変革に寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

東京シューレ発足のきっかけは、設立当時に奥地代表が経験した自分の子どもの不登校の問題にある。解決策を模索するなか、故・渡辺 位(たかし)氏(元児童精神科医・東京シューレ精神保健コンサルタント)と出会い、精神的に苦しんでいる子どもとの付き合い方について深く学習した。

折しも1980年代は日本の登校拒否の児童・生徒が激増するさなかであったが、不登校の問題に対応できる医師や学校の体制、親の理解が進んではない状況であった。そこで、奥地氏は子どもの思いを理解し、安心できる学びの居場所を提供しようと、1985年6月に「東京シューレ」という学校外の学びの場・支援の場を立ち上げた。前身となったのは、その1年半前に始めた「登校拒否を考える会」という保護者が集う自主的な会である。

親が不登校や引きこもりの子どもの立場に立ち、子どもの気持ちを尊重するようになると、「子どもに笑顔が増えていき、表情が柔らかく、いい顔になった」と奥地氏は話す。しかし、子どもたちが元気になっても、いじめなどで傷ついた学校に戻る気にはなれない。そこで、学校以外の場で、定期的に子ども同士が互いに学びあい成長できる場をつくらうと、1985年、東京の北区東十条を拠点に東京シューレを設立したものである。活動規模は年々広がり、現在都内と千葉県に3カ所、約120人の生徒が通うまでになっている。また、この間に約1,200人の子どもたちが社会へ巣立った。

### 主な活動内容

#### ①通所型フリースクール事業

学校外の子どもの居場所・出会い・交流・学習の場の提供や、自然体験、職業体験などの体験活動を行う。

その他、不登校の子どもの活動支援、相談活動、説明会・見学会・学習会、ひきこもり支援などの実施。

#### ②知的探求創造の場事業(シューレ大学)

学校制度によらない学術研究、創造活動、映画祭、公開講座などの実施。

#### ③ホームエデュケーションネットワーク事業(ホームシューレ)

在宅での不登校支援、地域交流、交流誌発行、インターネットを活用した交流、学習支援。6歳から20歳の子ども、若者および親、約250家庭が在籍している。

#### ④東京シューレ ライフデザイン科

19歳から35歳までのひきこもり・ニート・社会に出るまでの中間的な場を求めている人を対象に、仲間・居場所づくり、職業体験、学習など、自分の人生をデザインしていく活動。

### 2 主な教育関連事業の紹介

#### 事業名称 通所型フリースクール事業「東京シューレ」

「東京シューレ」の理念は、子どもたちのありのままを受け入れ、子どもがやりたいことを尊重している点にあり、各種講座やイベントへの参加は子どもたちの自主的な選択に任せていることに大きな特徴がある。

#### 子どもたちが参画してつくるプログラム

東京シューレでは、プログラムは学生たちが参画してつくることを主体としている。学習プログラムは、学生とスタッフのミーティングで、どんな力を養いたいのか、どんな時間がほしいかなどの意見やアイデアを話し合っ決めて。希望が1人の場合は個人学習となり、2人以上になれば授業もしくは講座を開講する。

開設されたプログラムは、数学・社会・理科といった教科学習のほか、ダンス・打楽器など表現力を養う講座、また手話や英会話等コミュニケーションを拓げるものなどがある。プログラムは成長段階の違いによる理解度の差を考慮して、大きく初等部と中・高等部に分かれているが、いずれのプログラムも子どもの自主選択制となっている。



休み時間を使って英語の自主学習をする生徒

#### 「せまべん」から「ひろべん」へ(教科学習や生活・体験から広く学ぶ)

イベントなどの体験型授業や、子ども同士の活動から学習する姿勢も重視しており、週に1回、他の授業を入れない「いろいろタイム」を設けている。町工場に協力を依頼して実現したトレイン製造、ハイキング、山登りなどの体験型授業を用意し、活動や人との出会いを通じて日常生活のなかで広く多くのことを学ぶ機会を提供している。

また、生活のなかから学ぶ姿勢も大切にしている。学ぶ姿勢は不登校になった時点で終わっているわ

けではない。パソコン、読書や漫画を読むといった生活のなかで、子どもたちが広く学んでいることを大切に、子どもの学ぶ意欲を信頼し、興味や関心を重視している。

以上のように、子どもがやりたいと思うことを主体としてプログラムを構成している東京シューレでは、子どもたちの大きな夢を現実のものにしている。例えば、2010年1月に実施した「アラスカプロジェクト」。9日間の日程で10名の学生が参加し、現地でオーロラ見学をするほか、アラスカの教育システム、アラスカと日本の先住民の生活など、テーマをもって調査を行う研修合宿を行った。



“オーロラを見てみたい”からアラスカプロジェクトが実現

## ニーズにあった様々な学びの場をつくる

東京シューレは、原則、自主入学、自主卒業である。通信制もしくは地域の学校とのダブルスクールをしている生徒も多い。義務教育課程では、不登校になり、フリースクールに通う子が多いが、地域の学校にも籍を置いており、文科省の示す要件に照らし校長の判断により、出席扱いとされている。

2007年4月には、不登校の子どもたちのニーズにあった様々な学びの場を公的につくるべく、葛飾区から旧小学校の空き校舎を借り受け、構造改革特区制度を利用し、学校法人格を持つ中学校「東京シューレ葛飾中学校」を設立した。

## 事業名称 ホームエデュケーション事業(ホームシューレ)

### ホームシューレが支える在宅不登校の子どもたち

「ホームシューレ」とは、学校に行かずに家庭をベースにして育てている子どもたちと、その家族のサポートと、お互いを結ぶネットワーキングの活動である。インターネットや交流誌を中心に、1993年の開始から約1,700家庭の参加があり、現在も約250家庭がつながりあい、直接の交流の機会も持っている。

不登校や引きこもりの子どもの中には、どこかに通うのではなく、在宅で成長している子どもも多く、ホームシューレでは、こうした子どもたちのために、成長段階に合わせたプログラムを設定している。

### ホームシューレの活動

ホームシューレの活動の柱は、

- ①無学年制で基礎学力を身につける学習サポート
- ②会員専用のコミュニケーションサイト「サイバースシューレ」による会員やスタッフとの交流
- ③会員の親同士とその子どもが出会い共に学ぶ場を提供する地方サロン・全国合宿
- ④家庭のパソコンを通じて会員がパーソナリティを務めるWebラジオを聴いたり、会員同士チャットしたりしてコミュニケーションができる「ライブシューレ」
- ⑤保護者の相談や交流を行う専門サイト「親サイバー」や、保護者向け情報交流誌「親から親へつたえたいこと・メッセージ」である。

## ホームシューレのネットワーク

会員が自主的に集う「ホームシューレ自主サロン」は、首都圏および地方を含めて年100回近く開催されており、子どもの個性に応じた教育について会員同士が学びあう交流が盛んに行われている。

また家庭にいる子は、学校に通えない自分に対して罪悪感や劣等感を持ち自信を喪失している場合が多い。ホームシューレでは、同年代の子どもが「サイバースシューレ」や「ライブシューレ」を通じて出会い、交流し、仲間を探すことができる。

## 事業名称 知的探求創造の場事業(シューレ大学)

### 学びたいことを自由に学べる場

学生がやりたいこと、探求したいことを尊重する東京シューレの理念に基づき、主に18歳から入学できる学びたいことを自由に学べる場として「シューレ大学」がある。シューレ大学の入学に資格や学歴は必要ない。在学年数も学生が自分で決定する。シューレ大学も、学生が主体となって運営し、講座の内容を決定する。

### 生徒が探求したいことを中心に講座をつくる

開講される講座は、不登校研究会、心理学、生き方創造論など、学歴社会や不登校、教育に関するテーマが充実している。その他にもソーラーカーや音楽、映像づくりなど生徒が自分で探求したいことを中心に講座がつけられている。

また、約50名の講師やアドバイザーが講座に関わり、講座の内容に合わせたグループプロジェクト、個人プロジェクトなどの授業形式を採用している。海外との国際交流プログラムとして、韓国・ロシア・アフリカ・イスラエルなど20カ国以上の地域でオルタナティブ(多様で代替性のある)な教育の場とつながり、交流や研究を深めている。



自分から始まる“自分研究”シューレ大学

## 3 事業の成果と課題

### 多様でユニークな卒業生の進路

東京シューレは設立以来、学校だけが子どもの成長の場でないことを、実態を通して示してきた。これまで東京シューレでは約1,200名の子どもが巣立っているが、卒業後の進路は多様で、それぞれが自らの個性や自分らしさを生かす道を考えたユニークなものである。

例えば、仲間とホームページコンテンツなどの制作会社を起業した者、自分が不登校で苦しかったときに話を聞いてもらい支えられた経験をもとに国連職員になり、難民支援の仕事に従事する者、夢をかなえて電車の運転士になった者、様々な国を旅行後、大手の旅行会社に就職し支店長を務める者、携帯から好きな小説を寄稿して「すばる文学賞」を受賞した者など、豊かな才能と個性を持った卒業生を輩出している。

一方、雇用構造が厳しく非正規雇用が増加するなかで、不登校の経験が影響を与えてリストラにあい、転職先を探すことが厳しいといった現実もあるが、計算どおりではない学歴のルートがあり、個人の生き方に幅があることを東京シューレは示している。

## フリースクール間の国際交流や、議連を通じた政策提言活動

フリースクール間のネットワークを組織化しており、その活動を海外にも広げている。毎年11月には全国のフリースクールが集まる「フリースクールフェスティバル」（フリースクール全国ネットワーク主催）では東京シューレの子どもたちが中心となって実行委員会をつくり、バンドや演劇シンポジウムや模擬店などを行い、300～400名の参加がある。

また、フリースクールの交流の輪は国内だけでなく、世界にも広がっている。世界フリースクール大会 IDEC（International Democratic Education Conference）に98年より毎年参加し、海外の子どもたちやスタッフとの交流が盛んに行われている。

2007年5月には東京シューレの活動がきっかけとなり、フリースクールの子どもたちの学ぶ場のさらなる発展を支えることを目的に、超党派の「フリースクール環境整備推進議員連盟」が発足、フリースクールに対する社会的認知が広まりつつある。当面の課題として、フリースクールに通う高校生年齢の生徒の通学定期券や学割料金の適用などを目指している。

## 運営に対する基盤助成の整備が必要

運動にもかかわらず公的支援がなく、フリースクールの財政面は厳しい状態が続いている。「フリースクール環境整備推進議員連盟」の活動も、不登校の高校生の通学定期実現は成果があったものの、現在は政治情勢からあまり進んでいない。

また、様々な助成金を獲得するための努力はしているが、助成金は新規事業の資金源にはなるが、運営の根幹となる運転資金としては活用できない。一方、不登校の子どもをもつ家庭の立場から、義務教育課程の子どもがフリースクールに通っている場合、保護者は籍が置いてある学校とフリースクールを支えるために二重の出費となり、負担は大きい。多様な教育、子どもの成長支援の選択肢の拡大を考え、市民によるフリースクールづくりやその運営に対する基盤整備や助成の仕組みづくりが必要であると考えている。



仲間との交流を楽しむ子どもたち

## 不登校に対する社会の視線は変わらない

活動を始めた1980年代から考えると現在、フリースクールの数は増えているが、社会全体の不登校や引きこもりの子どもに対する視線は変わらない。一般的に、不登校の子どもは成長課題を抱えた問題の子であり、特別な子であるという意識や、不登校は学校の問題ではなく家庭に原因があるという見方、また学校へ行くことへの当然視など、この30年弱の間あまり変化がないように見受けられる。

義務教育課程においては、不登校の子どもがフリースクールに通うことに対し、在籍する学校の先生方や近隣の理解が得られず、心理的に追い詰められる家庭もある。

方に基づいて、学校への復帰を前提とする国の政策が影響しているように感じている。

しかし、06年以降はいじめによる自殺が増加し、昨今では不況のために社会に精神的な余裕がなくなり不登校の子どもには苦しい状況がある。このように様々な社会的な状況が影響しているにもかかわらず、学校関係者や行政のなかには「自由のはき違えが不登校を増やす」と発言するなど、登校圧力がかかっている。

不登校の子どもを無理に学校に復帰させるのではなく、様々な生き方を尊重し、多様な学習の選択肢を子どもが選べる環境を整える必要があり、前述の議連を通じた政策提言活動等の活動を進めたい。

（ヒアリング応対者：理事長 奥地圭子氏、事務局長・理事 中村国生氏）



笑顔の奥地理事長、中村事務局長



東京シューレでは2007年3月に「教育多様化への提言——フリースクールの現場から」を作成し、その中で学校復帰を前提とした政策を変更することや、フリースクールに補助金や奨学金など公的支援をつけることなどの提言をまとめた。フリースクールがしっかりと既存の事業に取り組むために、社会の仕組みを変える制度改革を行政に働きかけていく必要がある。

## 4 今後の展望

### 多様な選択肢を選べる環境づくりを

不登校の子どもや親が心理的に追い詰められる背景には、「学校へ行かなくてはダメだ」という考え

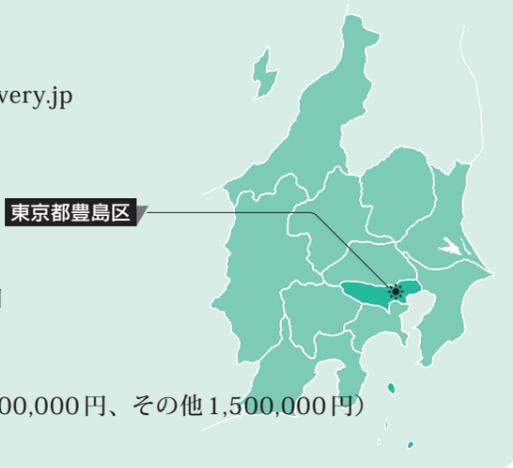


特定非営利活動法人

## NEW VERY (ニューベリー)

### 「新しい(=NEW)とても(=VERY)」を若者に

所在地…〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 1-31-2  
TEL…050-1071-8324 FAX…050-1071-8324  
URL…http://www.newvery.jp/ E-Mail…info@newvery.jp



1

#### 団体の概要

代表者名…山本 繁  
設立年月…2002年3月 認証日…2009年10月22日  
有給スタッフ数…常勤/7名、非常勤/2名  
事業規模(09年度決算収入)…55,000,000円  
(内訳:事業収入53,000,000円、補助金・助成金500,000円、その他1,500,000円)

#### 活動の目的・趣旨

若者と学校の間にある中退を主とした問題、若者と仕事の間にある雇用に関する問題、若者と若者にあるコミュニケーションの問題、その中心に存在する、それぞれの意識や立場でのギャップの橋渡しをし、少しでも解消していくため、若者を中心としてコミュニケーション形成の場を提供し、社会格差等の解消に寄与することを目的としている。

#### 団体の設立経緯

2002年3月に、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の学生が集まり、ボランティア団体としてスタートした。同年10月に、中学生・高校生を対象にした文章教室「第1期コトバナアトリエ」を開催。05年8月に、ソーシャルアントレプレナー育成プログラム「NEC社会起業塾」(主催:(特活)エティック(ETIC))の特別メンバーに選ばれた。

2006年には、ニートやひきこもりの若者しか入学できない「神保町小説アカデミー」、プロ漫画家志望の若者を育成する「トキワ荘プロジェクト」、ニートによるニートのためのインターネットラジオ局「オールニートニッポン」を開始した。

09年に、中途退学の予防を通じて若者たちの社会的弱者への転落を予防する「日本中退予防研究所」を設立し、10月に、NPO法人格を取得すると同時に組織名称を「NEW VERY」に改称した。

#### 主な活動内容

##### ①トキワ荘プロジェクト

100名以上のプロ漫画家志望者への低家賃住居の提供と、切磋できるコミュニティの形成

##### ②日本中退予防研究所

若者たちの社会的弱者への転落を予防するための学生の「中途退学」の問題にフォーカスした企業・行政・学校・NPOと連携・協働した調査研究、ソリューション開発・提供、人材育成

##### ③オールニートニッポン

日本初ニートによるニートのためのインターネットラジオ局の運営

##### ④区民プロデューサー養成講座

荒川区で、区民の相互交流のためのイベントを企画・運営できる区民ボランティア養成を目指す講座の企画・講師

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 トキワ荘プロジェクト

#### 漫画家のスタートアップを支援

東京の高額な家賃が、若者たちの挑戦と成長の足かせになっているのではないかと、という問題意識のもと、2006年8月から活動を開始した。

本気でプロの漫画家を目指す若者に、都内で低家賃の住宅(シェアハウス)を提供している。漫画家の卵が早くプロとして自活できるようになるために、アルバイトの時間を減らし、自己投資や本業に専念する時間をつくれるようにすることが目的である。

また、講習会の開催や、漫画関係の仕事(紙・デジタル両面)の斡旋・仲介を行い、より高いレベルで切磋琢磨できるコミュニティを形成し、漫画家としてのスタートアップ期を支援している。

具体的な支援として、入居者に向けて毎月10～20件ほどの漫画関連の仕事を紹介している。紙あるいはデジタル媒体による原稿依頼、アシスタント募集、各種コンテストへの優先参加権、そのほか漫画家としてスキルアップできる様々な機会を提供し、漫画家としての成長が加速するための後押しをしている。

月に1度の新人漫画家の懇親会「金2会」(毎月第2金曜日開催)や、その他のイベントを通じて、プロジェクトに協力してくれる編集者やベテラン漫画家、出版関係者と新たに知り合い、自他の作品や創作の仕方等について意見を交わすことができる。また、入居者は、励まし合い、時にライバルとして、刺激を与え合いながらプロの漫画家への道を歩んでいく。

#### 本気で漫画家になりたいことが入居条件

入居対象者は、地方在住(関東近郊出身でも可)で、本気で漫画家になりたいと考えている若者である。過去に受賞歴や掲載歴を持っている人でも入居できるが、原則として、高校卒業～30歳位までが対象である。都内、関東在住の人も対象となるが、同じ時期に応募があった場合は地方在住の人が優先となることもある。

入居期間は、入居日から3年をめどとしているが、事務局と相談しながらその人に合わせて考えている。1年ごとに審査がある。入居条件は、本気で漫画家を目指していること(完成原稿1本以上、またはそれに準ずるものを面談時に持参できること)、共同生活ができること、毎月きちんと家賃が支払えることである。

2011年1月現在、男子寮9棟、女子寮9棟に101名が入居している。



より高いレベルを目指すトキワ荘プロジェクトの講習会

事業名称 **日本中退予防研究所**

**川上での予防活動を**

現在日本では、年間11万人以上、1日に300人以上の大学・短大・専門学校生が中退している。また、中退後、その約6割がずっとフリーターや無職である。設立初期から様々なフリーター・ニート支援に取り組んできたが、フリーター・ニートになってからの支援でよいのかという悩みがあった。

川で溺れている若者を「川下」で引き上げても、心身ともに衰弱しきっている。「川下」で支援するよりも「川上」で予防するほうが効果はあるのではないかと。そこで、中退をフリーター・ニートの「川上の問題」と捉えて、中退予防のためのノウハウを研究して提供したり、中退してしまった学生の就職支援や転学のサポート、休学している学生の復学支援などを行ったりするプロジェクトを始めようと、2009年3月に「日本中退予防研究所」を設立した。

**中退者半減を目標に様々な事業を推進**

日本中退予防研究所では、大学・専門学校へのコンサルティング事業、研修・セミナー事業、出版事業などを通じて、若者たちの社会的弱者への転落を予防している。2016年までに、大学・短大・専門学校の中退者数を半減（対2008年比）させることを目標に、次のような活動をしている。

**①コンサルティング事業**

初年次教育改革、キャリア教育の設計・導入、SA（Student Assistant）の育成・組織化、ボランティアセンター、学友会、サークル活動の活性化、中退予備軍のモニタリングシステムの設計・導入、復学支援プログラムの設計・導入、中退者追跡調査などが主要メニューである。

**②研修・セミナー事業**

「大学改革のケーススタディ」、「学生はなぜ中退するのか?」、「今日の若者たちの気質と本音」、「中退したいと思われない大学づくり」、「初年次教育に求められる5つの力」、「担任力向上（ワークショップ）」、「ティーチングスキル向上（ワークショップ）」、「水際対策の基本戦略」、「復学支援の基本戦略」などを主要テーマとして、学校向けに研修やセミナーを行っている。

**③講演事業**

大学生・専門学校生向けには、「大学・専門学校中退のリスク」、「中退したいと思わない学生生活の過ごし方」、高校生・保護者・高校教員向けには、「中退しない大学選び」、「大学1年次の過ごし方」、「我が子が大学生になったら…」などを主要テーマに、講演を行っている。

**④出版事業**

『中退白書2010——高等教育機関からの中退』を2010年6月に発刊した。

高等教育機関からの中退を予防するにあたって、中退の実態を調べ、現状と原因を知る必要があった。101名の中退経験者へのインタビューを行い、ピースマインド総合研究所との協働で、調査結果の分析・解釈を行い、客観性をもって中退の実態研究を行った。



『中退白書』発刊記念シンポジウムの様子

**3 事業の成果と課題**

**●トキワ荘プロジェクト**

漫画家になるために最初にはなければならないことは、たくさん原稿を描くことであると考え、「1,000ページの完成原稿を描いてプロになる」ことを支援している。すでに、デビューするなどの実績をつくった漫画家も何名か出始めている。

当初目標であった100部屋提供を2010年の初めに達成し、あらためて何ができるのか次のステップを模索した。

先輩漫画家や編集者の方々が若手漫画家を育て、多くの大学・専門学校にマンガ学科が開校し、漫画制作の技術を教えているなかで、何ができるのか考え続けた。また、プロ漫画家、編集者、漫画協会関係、学校関係者などにヒアリングをした。

そこで出た一つの結論が、漫画家でも編集者でも教育者でもないNEW VERYは、漫画家を「支援するプロ」になろうという考えであった。低家賃住宅を提供しながら、技術的なことではなく、入居者が努力を続けられる環境を提供しようと考えている。

**●日本中退予防研究所**

大学教職員を対象に中途退学への対策を考える勉強会を2010年11月に開催した。講師は、大学改革の旗手として注目される嘉悦大学で改革の中心を担う杉田一真氏、進行は、読売新聞社・編集局教育取材班記者の松本美奈氏と日本中退予防研究所 山本繁所長が務めた。参加者のアンケートの満足度は、平均4段階中3.6点という高い評価であった。

また、中退対策の調査・研究、大学の中退対策の立案・実行支援、専門学校の教育改革支援等が、次第に効果をあげてきていると感じている。



中退対策勉強会の様子

**4 今後の展望**

**●トキワ荘プロジェクト**

特に注力するのは、入居者がプロの漫画家になれるように、たくさん原稿を描くことを基本に、目標設定や達成の支援をし、努力できる仕組みを提供することである。具体的には、コーチングメソッドを追求し、各入居者に合わせた目標を設定し、その目標を達成できるように面談をしつつ目標設定・達成の支援をする。

クリエイターのエージェントとして、国策提言や、様々な方面の関係者と新しい漫画に関わる事業を創っていくなど、漫画家支援のプロとして、新しい時代に求められる漫画家育成をしていく。

**●日本中退予防研究所**

出版事業としては、『中退予防戦略』を2011年3月に発刊予定である。普及啓発事業（シンポジウム）としては、2011年には“「情報公開時代」の大学を考える”（3月開催）、“2020年の高等教育をデザインする（仮称）”、“大学中退者への支援を考える（仮称）”を開催予定である。

また、2011年4月から山本繁所長が関西の大学に非常勤講師として赴任し、その講義内容等の情報発信をしていく予定である。

(ヒアリング応対者：日本中退予防研究所 アソシエイト 武井 明氏)



特定非営利活動法人

## トイボックス

### あらゆる子どもの長所をみつけて伸ばす新しい「がっこう」

所在地…〈本部〉〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江2-17-9  
TEL…06-6543-4770 FAX…06-6537-0517  
URL…http://www.npotoybox.jp E-Mail…toybox@npotoybox.jp



大阪府大阪市

1

#### 団体の概要

代表者名…中村亮一  
設立年月…2002年10月 認証日…2003年6月2日  
有給スタッフ数…常勤/4名、非常勤/約15名  
事業規模(09年度決算収入)…308,066,412円  
(内訳:事業収入298,302,907円、協賛金84,500円、会費154,500円、助成金・寄付金等7,071,939円、その他2,452,566円)

#### 活動の目的・趣旨

年齢、性別、障害の有無、国籍等を問わず広く自己の研鑽と発達を求める人々に対して、人格や個性や才能や学力などの多様な教育環境の提供や、スポーツや芸術、エンターテインメントの活動を通じての自己表現、自己実現の機会の提供に関する事業を行い、世界との交流の中で学校教育、社会教育の発展、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

団体の発足は2002年10月に遡る。池田市の市長から「不登校の子どもたちや家族のために幅広く柔軟な対応をするための新しい取り組みを始めたい」という要請を受け、代表理事の白井氏が「がっこう」という新しい教育の場をつくるために始動した。その後、池田市教育委員会の委託を受け、公教育とNPOの連携では全国初の教育支援事業として2003年9月より池田市教育会館の一室を借りて教育相談事業を開始。11月には池田市立山の家に活動拠点を移し、2004年4月に正式に新しい「がっこう」として「スマイルファクトリー」をスタートした。

#### 主な活動内容

##### ①スマイルファクトリー

大阪府池田市で、公教育とNPOが連携としての教育相談事業と、あらゆる子どものいいところをみつけて伸ばす新しい「がっこう」事業。

##### ②ラブジャンクス

ダウン症を持つ子どもたち、現在約650名に、ダンスパフォーマンスの楽しさ、ダンスを通じて表現することの素晴らしさを伝え、子どもたちの自立と自己実現をサポート。

##### ③リアルスポーツ

モータースポーツ・スポーツ活動を通じて、電気自動車の普及促進・



街の喧騒から離れた「山の家」

循環型社会の構築・青少年の育成などに取り組む。

##### ④キャンププロジェクト

指定管理者として生涯学習関連施設を管理運営するとともに、地域活性化のための活動を関西を中心に挙げる。

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 スマイルファクトリー

「スマイルファクトリー」は、五月山緑地に隣接する池田市立「山の家」を拠点に、在籍校と連携したうえで不登校生のためのスクーリングや、不登校のみならずひきこもり、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥多動性障がい)、発達障がい等、子どもを取り巻く様々な問題に関する相談活動を行う新しい教育の場「がっこう」である。

#### 1. スクーリング

現在の学校になじめない子どもたち、発達障がい、学習障がいなどを持つ子どもたちとその家族を支援するために、単位取得型フリースクールの運営、技能連携校制度を活用したハイスクールの運営を行っている。現在、小学校1年生から20歳までの幅広い年齢の生徒が通学している。専門的なノウハウを持つティーチングスタッフを中心に、青少年育成や障がい者支援などの活動を実施している。

##### ●不登校の2大原因に対応

不登校の2大原因を「学力低下」と「コミュニケーション能力不足」ととらえ、個別の学習支援とコミュニケーション能力育成のための体験学習をカリキュラムの柱にしている。

スクーリングは、毎週水曜～土曜日の10時～15時で実施している。通常、10時から小学生・中学生・高校生が合同で「朝のミーティング」を行い、10時半から個別学習を行う。個別学習では、学年にこだわることなく自分に合った内容を学習することができる。

昼食後は、理科実験・社会科実習・美術・体育・調理実習・手芸などの体験学習を行い、様々な学習の世界の入り口を楽しくのぞく時間を設けている。そして、「帰りのミーティング」を行い帰宅となる。また、地域における様々な課外活動も時折実施している。



自分に合った勉強に取り組む個別学習の時間

##### ●子どもたちをサポートする環境を整備

###### ・多彩なスタッフ

フリースクールには障がい者施設の元職員、元保育士、航空機の元整備士、高校の非常勤講師、大学院生、臨床心理士、アーティスト等がスタッフとして在席している。各自の特色を生かし、チームで子どもをサポートしている。

###### ・無理なく徐々に適応できる体制づくり

集団活動が苦手な生徒には、個室で学習できるような部屋をつくったり、攻撃性のある生徒は個別に対応したりと、どんな生徒でも無理なく徐々に適応できるような体制を整えている。

###### ・まるで大家族のような雰囲気

小学生から高校生まで学年の垣根をなくすことで、様々な年齢層の子ども同士のコミュニケーションが自然と行われている。

・子ども一人ひとりの様々な目標に対応

学校復帰をしたい、あるいは一定期間「山の家」に通いたいなど、様々な目標に対応した指導を行っている。また、通常の個別学習やレポート指導の中で、日常的に進路指導や受験指導を実施している。

## 2. 相談事業

NPOの柔軟性を生かして、24時間いつでも電話やメールでの相談を受け付け、対応できる体制をとっている。

主な相談内容は、親からは、LD、ADHD、発達障がいなどを指摘されたわが子への接し方や、「がっこう」への入学相談が目立つ。また、子どもからは、親子関係・兄弟関係の悩みや、友人から心に傷をつけられた苦しみなどが多い。時には死にたいといった相談も入る。また、親・子ども双方から、在籍校や担当教員に対する悩み・不満などが聞かれる。

当法人の相談事業の特徴は、相談員の人事異動がないため、頻繁に相談する人が変わるといったことがなく、「顔が見える」相談体制が保たれている点にある。また、相談者の状況を最優先に考える姿勢を大切に、家族ぐるみでサポートをしたり、相談員が家庭訪問したりと、あらゆる方法を採用し、必要に応じて家庭、医療、地域とも連携をとっている。

## 3 事業の成果と課題

### 安心できる「居場所」で子どもの心を開く

1年半にわたり、週1回程度スタッフが家庭訪問を重ねていた不登校の男子生徒がいた。彼は、中学校生活の大半を自宅の部屋の中で過ごし、家族とでさえ2年間も口をきいていなかった。スタッフは彼の家に訪問を繰り返したが、両親と話をしたり、弟とゲームをしたりするだけで、本人との接点は行き帰りに部屋の扉の隙間から、寝床に横たわっている後頭部に向かって挨拶をする程度であった。

しかし、このような無理強いをしないスタッフのフォローが、やがて彼の心を動かした。ある日、「がっこう」に行きたいという本人からの連絡が入り、通学が始まった。最初のうちは、常時イヤホンで好きな音楽を聴き、周囲からの接触を遮断していたが、徐々に「がっこう」の雰囲気にも馴染みだし、自分から先生に話しかけたり、仲間に自分の歌を聞かせたりと、大きく変化した。

このような変化は彼に限ったことではない。それぞれの成長のスピードや方向は違っても、安心できる「居場所」を用意してあげると、その中で自分自身を見つめるようになり、その結果何らかの変化が生じ、勇気を出して自ら一歩を踏み出すことが可能となる。そういった効果をもたらす場所として、2003年から拠点としている大阪府池田市の五月山は、自然豊かで静かな非常に良い環境である。

### 「居場所」を支えるスタッフ陣

多様な経歴を持つスタッフが揃っていることも特長の一つである。様々な角度から生徒たちにアプローチができるので、一つの方法を押し付けることなく、余裕を持った接し方ができる。そうしたことが評価されて、2009年度の相談・スクーリングは延べ8,136件にのぼった。

今後も生徒の可能性を引き出すために、体験学習のメニューを増やし、いろんなことにチャレンジできる環境を整えていきたい。

## 4 今後の展望

### それぞれの子どもに、自分に合った教育を

池田市で、8年間事業を行った結果、学校との連携が円滑になり、池田市内の不登校者がかなり減ってきた。この事実が、教育委員会やその周辺の人たちからも認められ、先生方との信頼関係もでき、好循環が生まれている。

近年、発達障がいの子どもの10人に1人以上ともいわれるほど増えている中、ますます当法人の大きな将来展望である「それぞれの子どもに、自分に合った教育を」の思想を普及させていくことが重要であると考えている。そのためにも、これまで築き上げてきた実績を、国の会議や政策決定の場に「現場の声」としてこれまで以上に発信していきたい。

### 地域との連携が不可欠

子どもが孤立しないためには、地域との連携が欠かせない。スマイルファクトリーでは、地域の人も参加する「フェスタ」などのイベントも開催しているが、今後も行政・企業・学校などと子どもとの間に当法人が入り、地域ぐるみで子どもをサポートできる体制を整えていきたい。

そのために必要な取り組みの一つとして、自分たちの活動を多くの人に知ってもらい、必要な人のところに必要な情報が届くようにすることがあげられる。様々な手法で情報発信を行い、多くの人とつながること、なかでも、影響が大きくて伝わるスピードが速い学校の先生方との連携に注力していきたい。



地域の人も参加する「フェスタ」の風景

(ヒアリング応対者：代表理事 白井智子氏、教務主任 石本智一氏)



自分たちの志を、事業として軌道に乗せて運営を行うには、行政や地域等、周囲からの支援が欠かせないことを痛感している。単独での運営が困難な当法人の教育支援事業も、行政や地域からの支援を受けながら、日々運営している。



特定非営利活動法人

# ホース・フレンズ事務局

## 馬を介した地域社会の未来づくり

所在地…〒573-1191 大阪府枚方市新町2-1  
TEL…072-841-1301 FAX…072-841-1401  
URL…http://www.horse-friends.org/ E-Mail…info@horse-friends.org

1

### 団体の概要

代表者名…芦内裕実  
設立年月…2004年4月 認証日…2004年4月1日  
有給スタッフ数…常勤/4名、非常勤/2名  
事業規模(09年度決算収入)…27,861,158円  
(内訳:事業収入14,033,891円、会費1,681,900円、補助金1,489,965円、  
その他10,655,402円)

大阪府枚方市



### 活動の目的・趣旨

馬の本来もっている優しさや臆病さが、心の問題を抱えている人にとって、どのように良  
いかを医学的、心理学的に検証を行いながら活動し、ストレス社会で心の問題を抱えた  
ニート・ひきこもり・不登校などに悩む人々の問題解決のきっかけとなる「自然に近い場  
所」と「馬が持っている人への心身の回復効果」の提供により、不登校から社会人のニ  
ート・ひきこもり者を増やさない事、さらに人が馬によって癒えてゆくことの素晴らしさを馬  
事業界に止めず、社会に広く普及させることを目的としている。活動場所として、特急の  
停車駅より徒歩5分とかからない場所に馬のいる牧場を開設。枚方市の所有地、約  
2000坪を有償で借り受け、入場料300円(1日出入り自由)で、誰にでも利用しやすく、  
人の心の寄り添う馬と自然の時間を過ごせる環境を目指し、ストレス社会に生きる多くの  
人々に癒しと感動を発信している。

### 団体の設立経緯

現代表の芦内氏が2000年に患った結核病がきっかけで設立された。乗馬を始める前に、ドイツで出  
合った乗馬療法(ヒポセラピー)を取り入れた馬介在による心と身体のバランスとしての健康づくりに着  
目した。2001年秋、馬が人の心を癒してくれる、この効果をストレス社会に生きる多くの人々に体験し  
てほしいという願いのもと、2004年4月に内閣府の認証を受け、NPO法人としてホース・フレンズ事  
務局を大阪市内に設立した。

### 主な活動内容

#### ① ふれ愛・フリースクエア事業

枚方市内45校の小学校を対象に、月1回「ポニーの学校訪問」プログラムを提供。

#### ② 復職支援プログラム

うつ病関連の疾患により休職中の従業員を対象としたプログラム。騎乗体験を中心に、セラピー牧場で  
の牧場体験や木陰でのティータイム、ホース・アシステッドセラピーについての講義を行う。

#### ③ ホースセラピスト養成講座事業

人の心理を理解しコミュニケーション能力を有する介助者を「ホースセラピスト」として育成。

#### ④ 不登校・ひきこもり・ニート支援/予防プログラム

乗馬、ブラッシングなどの馬の手入れ、馬房掃除などの作業とともに、馬についてより親しんでもらうた  
めの馬の学習を行う。また、社会的ひきこもりにつながる不登校予防プログラムとして、小学生が、放課後  
に牧場の収牧作業を手伝い、地域の大学生に宿題ボランティアでサポートしてもらい、地域で健全な子ど  
もを育てる「牧場放課後教室」も実施予定。

#### ⑤ ラジオ番組「ホースフレンズ ライフ・イズ・ビューティフル」

OBCラジオ大阪 毎週水曜日19:05~19:20放送中。

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 ふれ愛・フリースクエア事業「ポニーの学校訪問」

#### 馬を理解し、馬を身近に感じよう!

枚方市内45校の小学校では、2002年度より枚方市が実施する地域による教育力向上を目的とした  
「ふれ愛・フリースクエア」事業の一環として、毎週土曜日にボランティア、保護者、PTAなど大人たちが、  
学校・授業にはない遊びや体験を提供する活動を行っていた。事業を進める中で、小学校の先生方か  
ら枚方市教育委員会に毎週継続できる新しいプログラムを提案してほしいとの話が挙がった。そこで、  
ボランティアとして月1回ポニーを連れて訪問活動をしていたホース・フレンズ事務局に声が掛かり、ポ  
ニーを学校に連れていく「ポニーの学校訪問」プログラムを定期的実施することになった。

「ポニーの学校訪問」プログラムでは、小学生がポニーと一緒に散歩をしたり、ブラッシングをして毛並  
みを整えたりと、馬とのふれあいの時間を楽しむことができる。また、馬に関するクイズで馬への理解を  
深め、子どもたちがもっと身近に馬を感じるような時間も設けている。

ポニーの学校訪問の実施拠点は、徒歩でポニーを連れて行くこ  
とができる片道20分圏内の小学校が中心となる。毎月1回2時間  
のプログラムには40~50名の複数学年の児童が参加する。  
2011年度4月からは「ふれ愛・フリースクエア」から「枚方子ど  
もいきいき広場」事業と名称が変わり、枚方市から補助金を受給  
する予定である。



学校訪問の様子

### 事業名称 復職支援プログラム

#### ホース・アシステッドセラピーの試み

2009年8月より、うつ病関連の疾患で休職中の従業員を対象としたプログラムを、週に1回の4回  
シリーズ(各回3時間)で実施している。

動物や自然とのふれあい体験を通じて生活リズムの改善や就労意欲の改善を図ることを狙いとしてい  
る。復職後、健康を維持しながら就労を継続していくためには、働くことについての根本的意味につい  
て多面的に見つめ直す機会を提供することが必要であると考え、動物や自然との関わりを通じた体験を  
カリキュラムに導入した。休職者が視野を広げる機会を持つことで、エネルギー回復と社会適応力の向  
上を促し、自信の回復につながっている。

## 馬を通じて培うコミュニケーション力

枚方市駅近くにある枚方セラピー牧場で、騎乗体験を中心に木陰でのティータイム、ホース・アシステッドセラピーについての講義も行っている。騎乗体験では、有酸素運動となる常歩（なみあし）騎乗などを行う。乗馬後は、専用の機器を使った疲労・ストレス測定（脈拍変動による交感神経・副交感神経テスト）も実施し、効果評価のためのデータも収集している。馬の扱いも回を重ねるごとに慣れていくが、馬を動かすためには気持ちを通わせ、馬の気持ちを察する思いやりをもつことが欠かせない。馬を通じて相手を思いやるコミュニケーション力を培う訓練にもなっている。



牧場見学の様子

各回の最後には、振り返りの時間を約15分設定し、牧場体験を共有しつつ、次回以降に向けた改善点を話し合う。また、参加者へのアンケートでは、楽しむことができたという回答が多い結果となった。休職中に楽しんではいけなかったのではと、楽しむことに罪悪感を持つ参加者もいる中で、楽しいことを楽しいと感じることは、当たり前のように、実は休職者にとって大切なことであると考えている。

## 3 事業の成果と課題

### 新たな挑戦へのエネルギーに

不登校がちになった高校生が「ホースセラピスト講座」を受講した結果、ボランティアの側に立って活動に参加しようとしたり、サラリーマン生活に馴染むことができず、転職を繰り返すうちにひきこもり生活7年目になる中年の男性が、様々なプログラムに積極的に参加し、現在は競走馬育成牧場で働いているといった事例が出てきている。

ホースセラピーによって、自信を回復させ、自分の得意な物を発見するきっかけとなったり、新たに挑戦するエネルギーを与えているからだ考える。

### 馬が引き合わせてくれた縁

ホースセラピーの活動は徐々に地域に広まりつつある。2010年11月には、生態系を守るためにこれまで60年間ペット禁止区域だった大阪市立大学付属植物園（交野市）のイベントにポニーを連れて参加し、ホースセラピーの学術的な面と、セラピー馬の安全性を伝えた。そこでの出会いが、イベントの協賛企業の活動への理解につながり、スポンサーとして支援していただくことが決まった。これらは、すべて馬が引き合わせてくれた縁である。

### 団体・機関との連携とボランティアの役割

最近、親御さんからの相談が増えているが、親は当事者とは違うので、支援プログラムをつくるのに時間がかかってしまうことが多い。今後、さらに充実したプログラムづくりのためにも、心理専門機関との連携が必要であると考えている。また、当法人が目指す「人間が暮らしやすい場所」をキーワードとした活動のためには、「里山」との連携も必要であり、今後、これらの団体・機関と連携を進めていくことが求められている。

また、ボランティアと有給スタッフとの役割分担の明確化も課題の一つである。牧場を守っていくのは全員の仕事であるが、スタッフには、ボランティアが働きやすく、自主的に行動できる環境をつくるとい

う水面下の仕事が必要である。しかし、仕事と責任の役割をスタッフにきちんと伝え続けなければ、スタッフは、その場のやりやすい方法で進めてしまいがちである。

一方、ボランティアにも自分ができることを理解し、自らが仕事を探し、取り組もうとする姿勢が必要であり、今後は、ボランティアリーダーの育成も実施する予定である。



牧場見学者を案内する芦内氏

## 4 今後の展望

### 馬のいる地域コミュニティ

ストレス社会で生きている現代人にとって、自然環境で感性を磨き、豊かな人生にするための行動パターンとして習慣化することが必要であり、地域で助け合うコミュニティづくりが急がれる。地域で眠っている公園や植物園などを、ホースセラピーが実施できる「馬のいる森のコミュニティ」として新たに活用することで、子どもから大人までが集い、憩う場が実現できる。

こうしたコミュニティを設けることで、人が馬によって癒されることの素晴らしさを、多くの人が気軽に体験できる安心・安全な場所が誕生すると考えている。

### ホースセラピストという職業の創出

ホースセラピスト講座では、安全に楽しく活動に参加するために、心理学、乗馬生理学、馬学、コミュニケーション学などを学習し、大型動物から動物と接する際の危機管理を学び、コミュニケーション能力やボランティア精神を養う。自分に何が出来て、何が役に立つかを分かる人材を育成する。こうした能力を身につけた人こそが、企業が求めている人材である。

近い将来、企業に籍を置くホースセラピストが、企業のメセナ活動の一環として、ボランティアで活躍できるような社会を目指していきたい。さらに、セラピー馬の訓練や管理を専門に行う新しい職業の創出にもつなげていきたいと考えている。

（ヒアリング応対者：理事長 芦内裕実氏）



最近、様々なところで情報を手に入れることができるが、その中には、参考になる無料セミナーもたくさんある。それらをいかに有効に活用するかがポイント。また、情報発信や伝えることは最も重要で、活動を不特定多数の人に伝えるには、メディアの活用が重要。メディアが取材したくなるような「仕組み」「ネタ」をつくるのが、活動の周知に早く繋がる。

特定非営利活動法人

## 寺子屋方丈舎

所在地…〒965-0041 福島県会津若松市駅前町7-10

TEL…0242-32-6090 FAX…0242-32-6090

URL…http://www6.ocn.ne.jp/~houjyou/ E-Mail…houjou@abeam.ocn.ne.jp

代表者名…江川和弥

設立年月…1999年5月 認証年月…2001年7月

有給スタッフ数…常勤4名、非常勤2名

事業規模(09年度決算収入)…22,000,000円

(内訳：委託5,000,000円、補助7,500,000円、自主事業8,500,000円、寄付/会費1,000,000円)

福島県会津若松市



## 活動の目的・趣旨

青少年に対し、青少年が自己認知し、自分らしく生きるための支援を行い、もって広がりのある社会の創造に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

学校に行かない子どもを対象にした居場所兼学びの場づくり等の活動を子どもの立場に立って行っている。

## ● コミュニケーション支援「環境教育事業」

学校に行く行かないに関わらず、地域の子ども達が、環境を通じてコミュニケーションスキルを育むことを目的に行っている。

## ● 若者就業体験「梨プロジェクト」

若者が洋ナシの生育や、その販売、加工の技術を学ぶ機会を提供している。不登校の小学生～高校生20名を対象に、会津地方の後継者のいない梨生産農家の農地を借り受け、近隣農家の方の指導のもと、梨の生産から販売までの過程を一貫して行う。

また、幼児や小学生の体験学習を受け入れ、対象児童がインストラクターとして体験のサポートを行う。その他、「ニート支援事業」や、不登校・高校中退・ニート支援として「フリースペース事業」等を実施している。

## 🌟 ここに注目

福島県委託事業として、「ニート支援事業」を実施(2010年度)。



特定非営利活動法人

## 東北青少年自立援助センター 蔵王いこいの里

所在地…〒999-3114 山形県上山市永野字蔵王山2561-1

TEL…023-679-4005 FAX…023-673-2610

URL…http://www.tohoku-ysc.org/ E-Mail…ikoinosato@tohoku-ysc.org

代表者名…岩川耕治

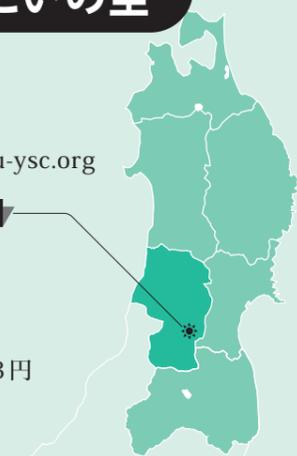
設立年月…1986年4月 認証年月…2008年1月

有給スタッフ数…常勤5名、非常勤2名

事業規模(09年度決算収入)…38,853,093円

(内訳：会費・寄付金3,101,000円、補助金・助成金11,705,943円、事業収入24,043,890円、その他(利息等)2,260円)

山形県上山市



## 活動の目的・趣旨

不登校、非行、引きこもり、薬物依存、障害等により、一般的な就職等による社会的な自立が困難になると予想される、又は現実に困難になっている青少年(以下「青少年」と記す)に対して、蔵王の恵まれた大自然の中で集団生活、共同生活を通じ規則正しい生活習慣の習得、社会的自立への援助、共同作業及び就労体験・訓練の場の提供を行うとともに、青少年の保護者への子育てに関する相談・研修事業を行い、不登校ないし引きこもり等の状況から脱却する機会を提供し、青少年の社会的自立の促進に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 不登校・非行・引きこもり等の若者自立支援事業

小学校高学年から40歳程度までの不登校、非行、ニート、引きこもり、軽度薬物依存、発達障害や対人恐怖症など、社会的自立につまづいている全国各地の青少年・若者たちの自立を支援している。

自然環境の中で共同生活を行いながら、規則正しい生活習慣や一般的社会常識の習得、共同作業、農作業、スキー実習、ボランティア活動、地元の方々とのふれあい等を通じて自立心を養い、集団や社会の中で生きていく力を身につけるための活動を行っている。

## ● 自然体験教室の実施

子どもゆめ基金の助成を受け、小中学生を対象とした自然体験教室「里山自然ふれあい教室」を1泊2日で年10回程度実施。

田植え、野菜作り、スキー教室など季節に応じたカリキュラムを実施している。

## ● 若者自立支援に係る相談員カウンセラー派遣事業

元教師やカウンセラー資格を持つ人などを相談員として派遣し、現場での経験に基づく実践的な自立支援を行っている。

## 🌟 ここに注目

1986年に活動を開始。25年間で巣立った若者は既に600名超。近年は地元の耕作放棄水田を借り受け、大赤字覚悟で無農薬米等の栽培を開始し、農地と景観の保護で地域に貢献。2010年には、地域課題の解決に取り組む公益活動を顕彰する「やまがた公益大賞グランプリ」を受賞した。



特定非営利活動法人

さいせい がく しゃ  
彩星学舎所在地…〒330-0043 埼玉県さいたま市浦和区大東2-12-33  
TEL…048-884-1234 FAX…048-884-1598  
URL…http://saisei.jp/ E-Mail…saisei@saisei.jp代表者名…垣花卓信  
設立年月…1998年8月 認証年月…2002年3月  
有給スタッフ数…常勤4名、非常勤2名  
事業規模(09年度決算収入)…12,296,950円  
(内訳：事業収入10,150,605円、寄付金1,241,756円、会費904,375円、  
その他214円)

埼玉県さいたま市

活動の  
目的・趣旨

子どもたちの健全な発達と自立を実現するために、市民の協働によって、学びのコミュニティの場を創造することを目的としています。

## 活動の紹介

子どもと大人も共に学び合う「学びのコミュニティ」を目指し、フリースクールの運営等を実施。

## ● フリースクールの運営

人間関係に様々なつまづきを抱える小学生から高校生、青年までが通うフリースクールを運営している。遊びを通して人間関係を学び自己肯定力・学習意欲などの向上を図る小学生クラス、体験的な活動を通して学力充実・対人関係の支援する中学生クラス、通信制高校に籍を置きながら一人ひとりを丁寧にサポートする高校生クラス、および高校卒業後のコミュニケーション力の獲得、ソーシャルスキルなどを支援する研究科、の4つのコースがある。

中学生は在籍している中学校と連携をとり、出席扱いが可能（在籍校の判断）である。

農作業、調理、大作業、演劇の発表、キャンプ、地域に向けたバザーなど様々な体験活動を通して、新たな役割の発見や可能性を探っている。

活動には埼玉大学教育学部の学生をはじめ、地域の市民など多くのボランティアが積極的に関わり、ボランティアのための学習会などを通して質の高いサポートの実現を図っている。保護者向けの交流会、学習会も開催し、子どものための幅広い支援を行っている。

## 🌟 ここに注目

2011年「埼玉県NPO大賞2010」奨励賞を受賞。これまでに中央ろうきん助成プログラムなど様々な助成を受けている。県・市、社会協議福祉会、埼玉大学教育学部、大東文化大学、淑徳大学などと協働し、地域の市民とも協力して活動している。

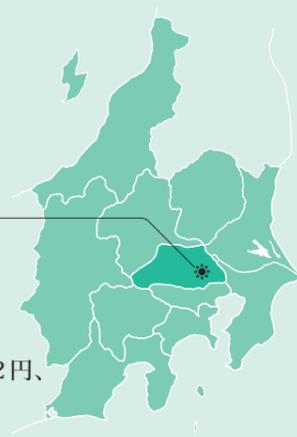


特定非営利活動法人

越谷らるご

所在地…〒343-0042 埼玉県越谷市千間台東1-2-1 白石ビル2F  
TEL…048-970-8881 FAX…048-970-8882  
URL…http://k-largo.org/ E-Mail…k-largo@k-largo.org代表者名…増田良枝  
設立年月…1992年2月 認証年月…2001年2月  
有給スタッフ数…常勤4名、非常勤4名  
事業規模(09年度決算収入)…17,776,370円  
(内訳：事業収入13,849,148円、寄付金・補助金・助成金2,728,802円、  
会費1,120,000円、その他78,420円)

埼玉県越谷市

活動の  
目的・趣旨

不登校の児童、生徒、高校中退者、自分に合った社会参加の形を探している若者のためのフリースクールの経営と、あらゆる年齢の人々の生涯学習の支援と、さまざまな不安を抱える人の相談および互助活動の場の提供と、人権擁護の推進と福祉の増進のための活動および学習者の自主的な学びを支援する制度の拡大を求める活動をおこない、もって公益に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● フリースクールの運営

不登校の子ども若者のためのフリースクール「りんごの木」を運営している。自由に過ごすことができる学校外の子どもの居場所でもある。スポーツ、学習、音楽、料理など様々な講座やイベントも行っている。小中学校では、校長の判断により出席扱いも可能である。

その他、映画制作(助成事業)や不登校の子どもたちのための芸術ワークショップ「アートプロジェクト」(助成事業)に取り組み、各分野で活躍するプロのアーティストを招いて作品作りを行っている。

## ● 引きこもりの若者の居場所事業

外の世界に出るのがつらい、これからのことが不安だなどと感じている人のための居場所として「ほっとりんご」を運営。ゲーム大会、スポーツなどを企画し自由な参加で交流を行っている。

## ● 親の会、その他の活動

毎月親の会の開催、相談、交流を行っている。その他、講演会、コンサートなどのイベント、広報誌の発行などを実施している。

## 🌟 ここに注目

県内保健所、他団体などへの講師派遣、他団体や大学などからの研修生受け入れも行っている。

民間企業とのスポーツ交流、校外での演奏会などの活動も実施している。また、義務教育終了後20歳までの子どもの自立支援のための自立援助ホームを2012年4月開設予定。



特定非営利活動法人

## ニュースタート事務局

所在地…〒279-0011 千葉県浦安市美浜 1-3-1006  
 TEL…047-307-3676 FAX…047-307-3687  
 URL…http://www.new-start-jp.org/ E-Mail…newstart@mua.biglobe.ne.jp

代表者名…北澤久実  
 設立年月…1995年4月 認証年月…1999年11月  
 有給スタッフ数…常勤13名、非常勤26名  
 事業規模(09年度決算収入)…232,617,954円  
 (内訳：会費・入会金・助成金44,940,893円、事業収入142,802,765円、  
 事業外収入44,874,296円)

千葉県浦安市



現代社会、家族構造の中でややもすれば取り残されたり、孤立しがちな青少年、子どもたちは数多く見られる。その形態は不登校、学校中退、閉じこもり、就職拒否など様々である。この法人は、このような青少年や子どもたちが健全に育ち、社会の一員としての責務を担ってゆくべく「新たな出発(ニュースタート)」をするための各種の支援活動を行い、もって開かれた家族、ふれあい豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

### 活動の目的・趣旨

### 活動の紹介

不登校や引きこもり等の若者達が共同生活を体験できる寮「若衆宿」や、仕事が体験できる場所「仕事体験塾」としてデイサービスセンター、何でもお手伝い屋、喫茶店、パン屋、パソコンを使ったIT事業部などを立ち上げなど、若者の「新たな出発(ニュースタート)」を応援する人間ネットワークづくり等の活動をしている。

#### ● ニュースタート高等学院「LINEL」

千葉県教育委員会の指定技能連携校。基本コース(3年制)は、1年生からの必修コースとして「生活科」や「仕事体験」「レポート学習」「スクーリング」等の授業がある。2年生以降、もっと学びたい生徒のためのオプションコースとして「専攻コース」があり、「英検・TOEIC専攻コース」や「福祉専攻コース」「IT専攻コース」等で学ぶことができる。

#### ● 若者自立支援社会力養成科

相当期間無就労、無就学の状態で、現状を変えたいと考えている15～40歳を対象に実施。社会生活をするうえで必要な生活習慣やコミュニケーションスキルを身に付ける「生活訓練」や、職種を問わず必要とされる能力を学ぶ「社会人基礎講座」、「職場体験・職場見学」等を行う。6ヶ月の集中コース。

### 🌟 ここに注目

不登校やニート、引きこもり等の若者たちの全般的支援の先駆的活動として、メディアにも多数取り上げられている。レンタルお姉さんによる訪問活動は、NHKのドラマにもなり、書籍も多数出版。2008年には厚生労働省委託事業「いちかわ若者サポートステーション」を開設。



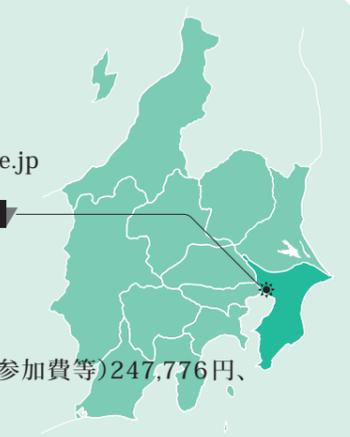
特定非営利活動法人

## セカンドスペース

所在地…〒272-0031 千葉県市川市平田 2-8-1  
 TEL…047-322-1257 FAX…047-314-8549  
 URL…http://www.secondspace.jp E-Mail…support@secondspace.jp

代表者名…成瀬榮子  
 設立年月…2003年7月 認証年月…2003年7月  
 有給スタッフ数…常勤5名、非常勤4名  
 事業規模(09年度決算収入)…19,017,557円  
 (内訳：特定非営利活動事業収入13,590,611円、雑収入(卒業生参加費等)247,776円、  
 事業収入5,179,170円)

千葉県市川市



### 活動の目的・趣旨

不登校・引きこもり者に対して学校復帰・社会復帰に関する様々な事業を行い、社会教育に寄与することを目的とする。

### 活動の紹介

#### ● 不登校・ひきこもり者のための就労支援

不登校・ひきこもり当事者のための自助グループとして発足した同団体は、10代～40代の方の学校復帰・就労支援を目的とし、病院、学校、企業と連携をとりつつ、訪問相談、カウンセリング、就労に向けたビジネス訓練、学習指導、資格取得支援などを行っている。

実務教育だけでなくコミュニケーション、スポーツ、表現活動など様々な講座を用意し、自由な学習の機会を提供している。厚生労働省若者自立塾、ジョブカフェ、若者サポートステーションとの協働も行っている。

2008年には県の関係課と連携し、一般の人と肩を並べての就職活動には自信がない青年を対象に、理解のある企業を探し、就労支援をする「ニート・フリーター対象合同就職フェア」を協働事業として実施し、参加企業数33社、求職者参加者数74名のうち実質就職者32名の実績をあげた。2010年度からは、発達障害のある方も対象に取り入れ成果をあげている。

また、「親の会・子の会・みんなの会」として、様々な立場から意見交換をする会を組織し、支援を考える場として運営している。その他、相談会、専門家を招いての講演会なども随時行っている。

### 🌟 ここに注目

協働事業実施期間終了後も、市川市1%支援制度を活用。同就職フェアの開催や相談会、講演会など活動を継続している。2010年は千葉日报社「千葉教育大賞」特別賞を受賞。また、(財)青少年協会との協働で青少年の居場所「あゆみ」を運営。本部と同様の活動をし成果をあげている。



特定非営利活動法人

## ドリーム・フィールド

所在地…〒435-0013 静岡県浜松市東区天龍川町 201  
 TEL…053-422-5203 FAX…053-453-9663  
 URL…http://www.h7.dion.ne.jp/~d-field/ E-Mail…dream-field@excite.co.jp

代表者名…大山 浩司  
 認証年月…2003年5月  
 有給スタッフ数…常勤7名、非常勤15名  
 事業規模(09年度決算収入)…26,105,575円  
 (内訳：事業収入9,947,310円、助成金9,265,370円、  
 寄付金5,932,280円、会費960,000円、その他615円)

静岡県浜松市



## 活動の目的・趣旨

フリースクール「ドリーム・フィールド」の運営を中心に、いじめや学習障がいなどさまざまな要因によって、学校生活になじみにくい子どもたちとその親などを支援する活動を通して、子どもたちの人間的な成長の力となり、本質的な教育のあり方を創造・発展させ、学歴社会全体の変革にも寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● フリースクールの運営

いじめや広汎性発達障がいなどをきっかけとして不登校となった子どもたちが伸び伸びと育つことのできるバリアフリーな体験的学びの場としてのフリースクールを運営している。音楽やアート、運動やゲーム、社会貢献活動などに自由に参加することによって、経験と自信そしてコミュニケーション能力を身につけながら共に成長できる環境を提供している。個別学習や通信制高校の勉強にも対応し、小・中学生は文部科学省の示す要件に照らし、学校長の判断で出席扱いとされている。

## ● 子どもたちによるコンサートの実施などの音楽活動

毎年「バリアフリーコンサート」「フリースクールフェスティバル東海」などを主催。浜松駅前を会場として開催され、有名プロミュージシャンの支援も受けている。2010年度は文部科学省より委託を受け不登校生や引きこもりがちな青少年のための楽器入門講座「SCHOOL OF ROCK」を実施。2009年度にはドリーム・フィールドによるチャリティオリジナルCDも制作、発表した。

## ● 不登校に関するシンポジウム、講演会などの開催

不登校の子どもを持つ親や教育関係者向けの講演会等を開催している。

## 🌟 ここに注目

音楽表現によって心を育てるという独自の活動を展開するフリースクールとして知られるが、福祉事業所「児童デイサービス」「就労継続支援A型事業所・雑貨カフェいもねこ」も運営しており、通信高校の学習を含めて、社会へ自立してゆくための総合的なサポートを行っている。



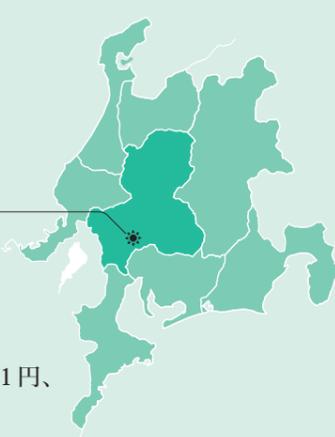
特定非営利活動法人

## 仕事工房ポポロ

所在地…〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光 2658  
 TEL…058-337-0701 FAX…058-337-0728  
 URL…http://www.poporonoie.org/index.html  
 E-Mail…t6kxy8ge@wh.commuja.jp

代表者名…中川 健史  
 設立年月…2007年6月 認証年月…2008年1月  
 有給スタッフ数…常勤0名、非常勤0名  
 事業規模(09年度決算収入)…2,588,380円  
 (内訳：会費69,000円、事業収入1,486,379円、寄付金133,491円、  
 助成金895,000円、その他4,510円)

岐阜県岐阜市



## 活動の目的・趣旨

ニート、引きこもりなど生き方・働き方・人間関係に悩み社会への出口を模索する若者、様々な事情によって働く場所が狭められている子育て中の母親や高齢者などのために自立・就労・仕事に関する事業を行い、そのために様々な分野の人々、地域との交流を進め、誰もが共に生き生きと幸せに生きていける社会づくりに資することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 働き方体験と研修事業

引きこもりやニートの子ども・青年を支援するために、若者の交流と就労支援事業、研修事業を行っている。

「仕事工房ポポロのいんさつやさん」でチラシの編集・デザイン・名刺の制作・その印刷、ビラ・チラシ編集講座の講師、パソコン講座の講師、ジュエリーのデザインと販売といった仕事や「ポポロ農園」での野菜栽培や収穫物の販売などの仕事があり、仕事体験と無料研修を実施している。また、100%再生紙の一筆箋、あぶらとり紙を製品化して販売している。

## ● 学び座事業

仕事体験をかねて交流し、「話す」「聞く」機会を提供している。いつ来て、いつ帰ってもいいという出入り自由な「学び座」では、他に「人生の先輩たちから話を聞く会」「映画を見る会」「お楽しみ会」なども希望を出し合って企画している。

## ● 家族会事業

引きこもりやニートの子ども・青年を抱える家族・親への支援を行っており、家族が孤立することなく、気軽に集まり語り合える場として家族会を毎月開催している。

## 🌟 ここに注目

2008年後半に大きな社会問題になった派遣切りによって職も住居も失った若者たちも参加しており、活動がメディアに取り上げられると、昼夜を問わず連日家族からの相談がある。代表は不登校、引きこもり、ニートに対応できる行政の総合的な支えるシステムが必要と訴えている。



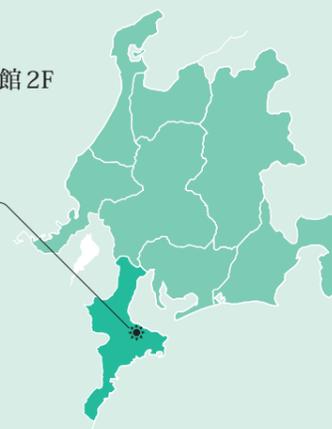
特定非営利活動法人

## チャレンジスクール三重

所在地…〒515-2322 三重県松阪市嬉野町 1430 一志久居教育会館 2F  
 TEL…0598-42-8174 FAX…0598-42-8174  
 URL…http://www.chmie.jp/ E-Mail…chmieinf@yahoo.co.jp

代表者名…玉村典久  
 設立年月…2005年4月 認証年月…2005年9月  
 有給スタッフ数…常勤6名、非常勤5名  
 事業規模(09年度決算収入)…19,128,077円  
 (内訳：事業収入19,118,077円、寄付金10,000円)

三重県松阪市



### 活動の目的・趣旨

教育的に困難な環境にあるすべての人に対して、それぞれが互いに学びあい、支えあう中で自立し成長していくことができる場と支援を提供する事業を行い、もって社会教育の推進と、子どもの健全育成に寄与することを目的とする。

### 活動の紹介

#### ●「チャレンジスクール三重」の運営

主に高校学齢の不登校経験者や高校中退者、高卒資格を持たない若者のためのスクールを運営。一人ひとりの個性にあったまなびや未来へ前進する自信と勇気を育む場として彼らの再チャレンジを支援する活動を行っている。スタッフのほとんどが、高校教員の資格を有し、学校現場等での経験を持つ教育の専門家であるため、その専門性や経験を生かして、単なる居場所ではなく教育の場として活動している。英語・数学などの教科については、習熟度別授業とし、学習の遅れがちな人の学び直しや、進学対応もしっかりサポートする。卒業後の進学・就職に関するフォローも行っている。

「人は人の中で育つ」、「スモールチャレンジ」をモットーに自然体験・調理実習・各種スポーツなどの生活体験活動にも力を入れている。通信制高校にも在籍することで無理なく高卒資格を取得することができる。

学校をはじめとする関係諸機関への働きかけや、相談会開催などの広報活動のあり方を研究し、潜在的ニーズを掘り起こす活動もしている。

### 🌟 ここに注目

2008年度から3年間、文部科学省「不登校等への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」受託。また、2009年から三重県NPO基盤強化事業となっている。利用者の多様化するニーズに対応していくために、新たな活動場所と人的資源を確保し、支援体制を強化した。



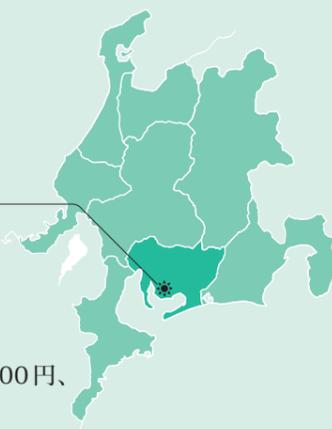
特定非営利活動法人

## トルシーダ

所在地…〒444-0075 愛知県岡崎市伊賀町 5-110-2  
 TEL…090-6462-3867 FAX…0564-23-8228  
 URL…http://www.geocities.jp/torcidajppj/  
 E-Mail…torcidajppj@yahoo.co.jp

代表者名…伊東浄江  
 設立年月…2002年10月 認証年月…2003年11月  
 有給スタッフ数…常勤5名、非常勤10名  
 事業規模(09年度決算収入)…13,263,798円  
 (内訳：会費92,000円、事業収入12,644,544円、寄付金390,300円、その他136,954円)

愛知県岡崎市



### 活動の目的・趣旨

進路が決まらない、不就学、不登校の外国籍の子どもに居場所を提供すること。子どもたちとの関わりを作ることを通して社会性を育むこと。地域の外国籍住民に日本語学習の機会を提供し地域社会との関わりを作ること。

### 活動の紹介

#### ●地域の外国籍の住民に対する日本語教育の実施

小学生から大人までの外国籍の住民に対して、日本語教育を実施している。年齢と習熟度別のグループ学習や体験学習（料理、スポーツ、社会見学、地域活動への参加など）のカリキュラムを行っている。進路情報の提供（公立学校編入、進学のためのサポート）や指導者ための勉強会なども実施している。

#### ●不就学・不登校の外国籍の子ども・青少年への居場所の提供

同団体は日系ブラジル人が特に多い地区にあり、家族で来日した子どもたちに対する支援をしている。保護者の都合で継続的な教育を受けられないまま、母語でも日本語でも学力をつける機会を失い、不就学、不登校になるケースも見られるなかで、物理的な居場所、心の居場所を提供している。就労支援、進路ガイダンスなども行っている。

#### ●外国籍の住民と地域社会との交流活動の支援

祭りイベント、スポーツなどを通して交流を行っている。外国人の子ども・青少年やその保護者が主体的に関わる事業なども開催している。

### 🌟 ここに注目

地域の国際化に対して、市が実施した青少年健全育成事業の立ち上げに協力、事業に参加したメンバーが中心となり活動が開始された。外国人住人と共に考えつくる社会を活動の基本に、県、市、他団体による助成金事業も多数。マスコミへも度々取り上げられている。



特定非営利活動法人

## 夢街道・国際交流子ども館

所在地…〒619-1152 京都府木津川市加茂町里新戸 114

TEL…0774-76-0129 FAX…0774-76-0129

URL…http://www.yumekaido-kodomokan.org/

E-Mail…info@yumekaido-kodomokan.org

代表者名…比嘉昇

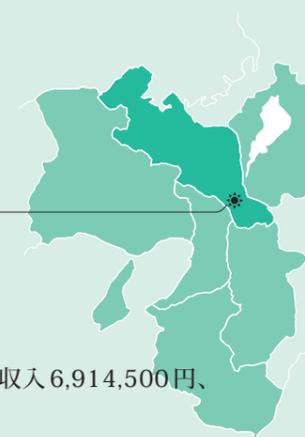
設立年月…2001年1月 認証年月…2001年12月

有給スタッフ数…常勤3名、非常勤10名

事業規模(09年度決算収入)…18,110,492円

(内訳：会費収入等1,957,000円、寄付金2,218,923円、事業収入6,914,500円、助成金5,950,979円、その他1,069,090円)

京都府木津川市



## 活動の目的・趣旨

子どもと子ども、大人と大人、子どもと大人。日本人と世界の人たちとの出会いを通じて自分に誇りを持ち、人として地球人の一員として生きていくことを大切にする。そのための様々な取り組みを通じて、京都府および近隣の諸都市の生活や文化の向上に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● フリースクールの運営

京都府が実施しているフリースクール連携推進事業における認定フリースクールとして、学校と連携した教育活動を行っている。

午前中は学習を中心にレポートの作成や、自らの課題に教科担当のボランティアスタッフの指導のサポートで取り組む。午後は、スポーツなど体を動かす活動を行っている。

米作りや子ども館の畑での野菜作り、収穫したものを使った収穫祭、料理やケーキを作って仲間を祝う誕生会や、自分たちで企画・立案して行事を実行するなど、多彩な活動を行っている。保護者の会も組織している。

## ● 講演会や研究会等の開催

一般に向けた講演会、子ども向けのお話会、ミニコンサートなどを企画、実施している。また、学校関係者の相互研究の場「学習指導研究講座」を行っている。初期型ひきこもり訪問応援「チーム絆」も行政と協働で運営している。

## 🌟 ここに注目

認定フリースクールとして学校と連携した活動を展開。ひきこもりが長期化しないように訪問活動をする「チーム絆」は、京都府、学校、他民間支援団体、就労先事業所等と連携した取り組みが注目されている。



特定非営利活動法人

## 恒河沙母親の会 安養寺フリースクール京都校 大津校

所在地…〈京都校〉〒602-8288 京都府京都市上京区中立売通千本東入田丸町 379-3

TEL…075-414-4192 FAX…075-414-4192

URL…http://anyouji.es.land.to/wiki/

E-Mail…anyouji.free.school@gmail.com

代表者名…福島美枝子

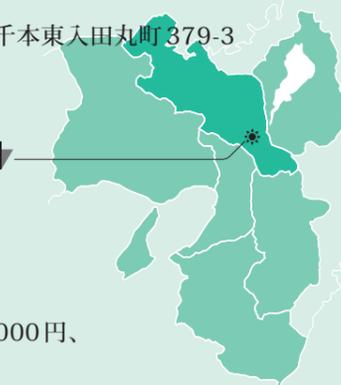
設立年月…2000年4月 認証年月…2005年2月

有給スタッフ数…常勤4名、非常勤6名

事業規模(09年度決算収入)…4,321,728円

(内訳：会費120,000円、事業収入680,500円、寄付金20,000円、助成金3,500,000円、その他1,228円)

京都府京都市



## 活動の目的・趣旨

不登校・ひきこもり等で苦しむ青少年や精神障害者及びその家族に対して、病院や学校その他関連機関とも連携しながら、精神障害者等が地域生活をするために必要と思われる施設の運営および人的ネットワークの整備を行い、その福祉の向上と自立に寄与するとともに、精神障害者等のための相互扶助の場を整えつつ、かつ精神障害者等の問題に対する社会的理解を促進することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 「安養寺フリースクール」の運営

小学生から高校生までの子どもたちの居場所・仲間づくり、学習指導、進路指導などを行っている。文部科学省の示す要件に照らし、学校長の判断で学校の出席扱いも可能である。大津校安養寺の掃除や西賀茂農園での農作業など集団の中での多様な活動を通じて、コミュニケーション能力や生活力、協調性、社会性などを育む取り組みにも力を入れている。定期的に国内外への文化交流研修等を行って、幅広い視野の獲得も図っている。精神科医、臨床心理士や精神保健福祉士など外部の専門家とも連携を強化。広域通信制サポート校としての活動もしている。

## ● 不登校支援のための勉強会の開催

京都市教育委員会の委託事業として、不登校について悩みを抱える保護者を対象に学習会「あんようほのぼのワークショップ」を開催している。不登校児童の状況に応じて医学的な視点からも子どもの対応の仕方を親が自分で考え、社会的資源を使って子どもと共に問題解決にあたることを学ぶ。また、互いの悩みや思いなどを話し合ったりする中で、不安な気持ちを和らげるとともに、子どもとの関わりについて改めて見つめなおすことを目的としている。

\*大津校：滋賀県大津市松本2-10-10 TEL/077-522-6482

## 🌟 ここに注目

「安養寺フリースクール」は、京都府教育委員会フリースクール認定校、京都市教育委員会フリースクール連携事業校となっている。京都府教育委員会民間施設連携支援実践調査研究事業、京都府地域発未来っ子支援事業も委託している。



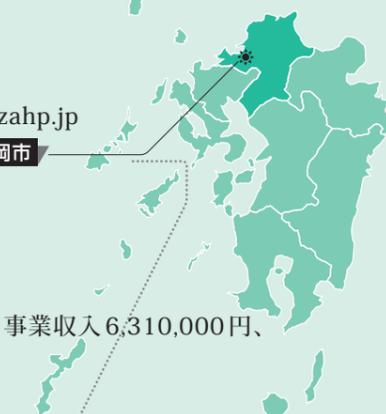
特定非営利活動法人

## 箱崎自由学舎 ESPERANZA (エスペランサ)

所在地…〒812-0053 福岡県福岡市東区箱崎3-18-8  
 TEL…092-643-8615 FAX…092-643-8625  
 URL…http://www.esperanzahp.jp/ E-Mail…info@esperanzahp.jp

代表者名…齊藤皓彦  
 設立年月…2005年2月 認証年月…2005年6月  
 有給スタッフ数…常勤5名、非常勤0名  
 事業規模(09年度決算収入)…14,424,491円  
 (内訳：会費・入会金683,000円、寄付金等2,408,314円、事業収入6,310,000円、助成金等3,813,000円、その他1,210,177円)

福岡県福岡市



## 活動の目的・趣旨

不登校の中等・高等学校生及び高等学校中退者を中心に、広く児童・生徒および関係する保護者などに対して、学校、社会に適應できるようになるために教育相談、講演会事業やフリースクール事業などを行い、「自分らしさを発揮できる場」を提供することで、子供の健全育成に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ●フリースクール運営事業

中高生を中心に、様々な事情で学校に行けなくなったり、引きこもった人を対象にフリースクールを運営している。中学生については週5日を基本とし、高校生については週3日コースと週5日コースがあり、個人の状況によって選択する。少人数編成によりほぼマンツーマンに近い学習指導を行っており、家庭的な教育を目指している。高等学校卒業資格を取得したい人に関しては、通信制高校に同時入学し、そこを卒業できるように、レポート提出のための授業や、スクーリングへの出席指導、テスト対策、生活指導等、様々なサポートを行っている。また、生徒たち自身で考えて作る「楽しいランチクッキングデイ」をはじめとして、農業活動、キャンプ活動、ボランティア活動やレクリエーションなど、様々な体験学習も実施している。

## 🌟ここに注目

従来の中学校、高等学校の枠を超え、生徒一人ひとりの個性や学力、適性に合わせたきめ細かい指導を少人数教育で行っている。年間計画はあるが、その中身を作っていくのはすべて子どもたちで、みんなで話し合っ、どのように行事を実施していくか決めている。



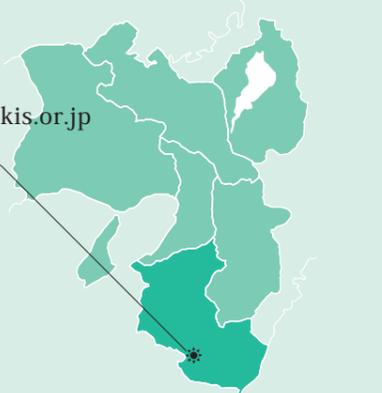
特定非営利活動法人

## ハートツリー

所在地…〒646-0032 和歌山県田辺市下屋敷町98  
 TEL…0739-25-8308 FAX…0739-25-8308  
 URL…http://www.aikis.or.jp/~heart-h/ E-Mail…heart@mb.aikis.or.jp

代表者名…酒井滋子  
 設立年月…2002年5月 認証年月…2006年11月  
 有給スタッフ数…常勤7名、非常勤5名  
 事業規模(09年度決算収入)…28,732,127円  
 (内訳：事業・補助金等28,266,078円、寄付金414,622円、その他51,427円)

和歌山県田辺市



## 活動の目的・趣旨

ひきこもりの青年たちが抱える困難な状況を解決し、自立への道を支援する。そのために個々の要求に対応した必要な支援(相談、訪問、居場所、作業など)を医療・保健・福祉・教育・就労等の機関と連携しながら提供するとともに、ひきこもりについての啓発活動、支援する人材の育成の事業を行い、次世代を担う青年たちの自立への促進と福祉の向上に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ●ひきこもり青年の居場所事業

ひきこもり状態にある青年、15歳～30歳代までの男女を対象とした居場所づくりの事業を行っている。卓球、カラオケ、お茶会、美術鑑賞などの「レクリエーション」や、居場所から一歩出て、さらに人間関係を広げ、社会参加につなげる支援をする「社会体験活動」、「相談」、「お菓子作り」などを行っている。「お菓子作り」では、自主製品のクッキーとケーキを作り、主に市内でのイベント等に参加して、販売している。

## ●南紀若者サポートステーション運営(厚生労働省の受託事業)

ニート・ひきこもり、学校から離れた方、就業されていない方、またその保護者等を対象とした、支援プログラムや個別相談を実施。

支援プログラムとして、NPOでのボランティア体験や一般の事業所での職場見学などができる「職業ふれあい事業」や、一般の事業所などで就労体験ができる「ジョブトレーニング事業」、「働く」ことに必要なマナーを学ぶ「スキルアップ講座・マナー講座」、高校の定着(中退予防)や高認試験の受験などのための「学習支援」などがある。

## 🌟ここに注目

ひきこもりの人などに居場所を提供するとともに、その人の状態や環境に合わせたプログラムで社会参加や社会復帰のきっかけをつくっている。



特定非営利活動法人

## フリースペースふきのとう

所在地…〒857-0874 長崎県佐世保市京坪町8-1

TEL…0956-25-6222 FAX…0956-76-8131

URL…http://www15.ocn.ne.jp/~furispe/

E-Mail…f-porepore@shirt.ocn.ne.jp

代表者名…山北真由美

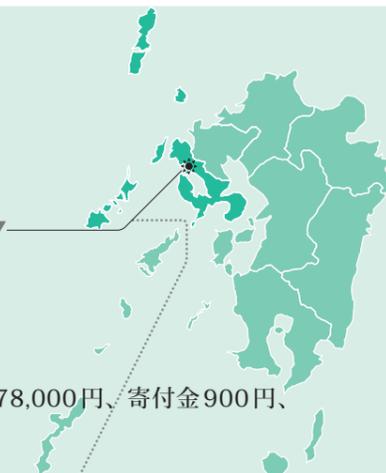
設立年月…1988年12月 認証年月…2010年1月

有給スタッフ数…常勤1名、非常勤0名

事業規模(09年度決算収入)…649,281円

(内訳:会費56,000円、事業収入3,000円、補助金等収入578,000円、寄付金900円、雑収入11,381円)

長崎県佐世保市



## 活動の目的・趣旨

不登校の子どもやひきこもりの親、市民、学生など広範囲な人々と共同し、不登校の子どもたちやひきこもりの人たちのための相談活動や就労支援、また親を含め自分らしく生きるための支援を行い、それをもって社会の創造に貢献することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 不登校やひきこもりに対する居場所、学び場の運営事業

学童期(6才~18才)の不登校の子どもたちの居場所「ぼこ・あ・ぼこ」、青年期・成人期(18才以上)のひきこもりの方たちの居場所「ぼれぼれ」を企画・運営。

数学、国語、英会話の学び場、ギター教室や、ひきこもり当事者同士のおしゃべりの場「のんびり気分でほっこりサロン」の実施。

## ● 不登校やひきこもり当事者の就労支援、並び職場体験の場の支援事業

仕事に就くための技術的なことの前に、将来への夢や思い、仕事のおもしろさなど、就労への一歩としていような価値にであう機会として「仕事塾連続講座」の開催や短期職場体験などを実施。

## ● 不登校児を持つ親の会「ぼこ・あ・ぼこ」

親同士による情報交換や学習会、映画の視聴などを行っている。

## ● 講演会・講座の開催

不登校やひきこもりについての理解を深め、支援と理解を求めるための講演会、講座などを開催。

## ● 相談受付等

不登校・ひきこもりや、教育全般に関する相談受付、情報提供や広報事業。

## 🌟 ここに注目

2009年に佐世保市民提案型モデル事業「ホップ・ステップ・社会へ」、長崎県子ども政策局補助事業「地域子育て力向上アクション事業」、2010年に佐世保市障がい福祉課より「家族支援の講演」「ひきこもり家族教室」「市民への啓発のための講演会」「ひきこもり相談支援」事業を受託。



特定非営利活動法人

## NPO学生サポートフェイス

所在地…〒843-0024 佐賀県武雄市武雄町大字富岡9330-1

TEL…0954-22-3423 FAX…0954-22-3301

URL…http://www1.odn.ne.jp/faith1019/ E-Mail…ssf@student-support.jp

代表者名…谷口仁史

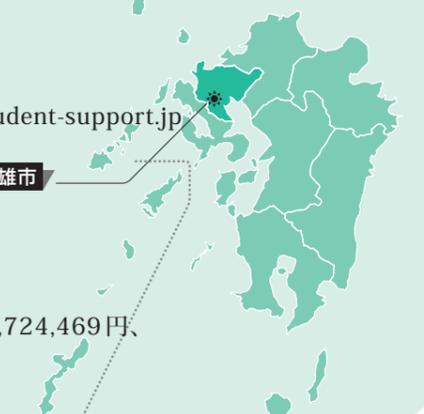
設立年月…2003年7月 認証年月…2003年10月

有給スタッフ数…常勤36名、非常勤7名

事業規模(09年度決算収入)…79,310,232円

(内訳:会費27,000円、事業収入75,198,871円、寄付金1,724,469円、助成金1,800,000円、その他559,892円)

佐賀県武雄市



## 活動の目的・趣旨

不登校、引きこもり、非行等、学校や社会への不適応問題を抱える子ども達に対して、訪問型教育支援に関する事業を行い、子どもの健全育成に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 社会参加・自立に至るまでの総合的な教育支援活動

不登校、ひきこもり、ニート等、困難を抱える子ども・若者の自立支援に取り組んでいる。改善率9割の家庭教師方式のアウトリーチ(訪問支援)を中心に、専門家が適応訓練を行うフリースペースの運営、体験型のイベントの開催、認知行動療法と職親制度を活用した就労支援事業等、社会的自立に至るまでの一貫した支援事業に携わっている。

## ● 多重に困難を抱える子ども・若者を対象としたアウトリーチ

子ども・若者が抱える困難の解消に向け、従来のカウンセリングだけでなく、対人面、メンタル面、ストレス面、学習面、家庭環境面等、多面的にアプローチすることで、従来の対応では改善が困難だったケースにも効果的な支援を展開している。

## ● アウトリーチの専門的フィールドを活用した戦略的人材育成

教育・医療・福祉分野で学ぶ大学生や同分野の関係者などを対象に実地訓練を含む「選抜研修制度」を実施している。不登校、ひきこもり等教育・社会問題の解決の過程で実践的能力を有する人材を育成し各分野に輩出していく取組を全国各地で実践している。2010年度は他団体への講師派遣を中心に全国75か所(研修講演含む)で実施した。

## 🌟 ここに注目

「社会的に必要なものは『協働』で創り出す」という方針の下、地域のみならず全国規模の協力体制に至るまで関連組織と重層的なネットワークを構築している。アウトリーチとこれらのネットワークを活用した総合的な活動の実績が認められ、2010年内閣総理大臣表彰を受章している。



特定非営利活動法人

さんごしゃ

## 珊瑚舎スコーレ

所在地…〒900-0022 沖縄県那覇市樋川1-28-1 知念ビル3F  
 TEL…098-836-9011 FAX…098-836-9070  
 URL…http://www.sangosya.com E-Mail…sango@nirai.ne.jp

代表者名…星野人史  
 設立年月…2001年4月 認証年月…2003年1月  
 有給スタッフ数…常勤6名、非常勤9名  
 事業規模(09年度決算収入)…16,555,536円  
 (内訳：事業収入8,964,443円、寄付金6,723,286円、  
 会費54,000円、その他813,807円)

沖縄県那覇市



## 活動の目的・趣旨

沖縄県内外を問わず一般市民及び青少年、児童に対し、個人の尊厳と権利の尊重、自由と自立と平和の希求、個性豊かな普遍的文化の創造を生きる喜びとする価値観を手に入れるための援助となる教育に関する事業を行い、学校教育の一つの典型を具現化することを目的とする。

## 活動の紹介

## ●不登校生徒等のための学校の運営

自分のペースで勉強ができ、思索と表現と交流を実現できる場としての学校を運営している。不登校など既存の学校になじめない生徒も受け入れている。中等部、高等部、専門部、夜間中学校がある。中等部、高等部はサポート授業、体験学習、芸術活動、自主行動プログラムなど、独自のカリキュラムと高卒認定試験への対応を行っている。

専門部には沖縄課程と東南アジア課程があり、言語や文化などを学ぶことができる。

夜間中学校は何らかの事情で義務教育を受けられなかった主に高齢者のためのカリキュラムで、卒業時には県教育委員会から卒業証書を授与される。

学生寮、専用農園、学習を实践するアンテナショップなど学校を取り巻く環境も整えられている。1,000坪の山林・原野を開墾し、島型循環エコシステムの設備を備えた、畑や果樹園、農作業小屋、炊事場、宿泊施設を伴う環境学習の場「山がんまり」を完成。整備された拠点に卒業生1名を専従の管理者として配置し、生徒たちが毎週、維持・管理の仕事を担う。

また、地域の子どもたち、修学旅行生、社会人の教育の場としても活用し、様々な人たちの成長を手助けする場となっている。

## 🌟ここに注目

代表者は元私立高校校長。望ましい環境を沖縄に求め、学校を開設した。夜間中学校は県との協働である。活動にあたって、パナソニックNPOサポートファンド、トヨタ環境活動助成プログラム、TOTO水環境基金、積水ハウスマッチングプログラムなどの助成を受けている。



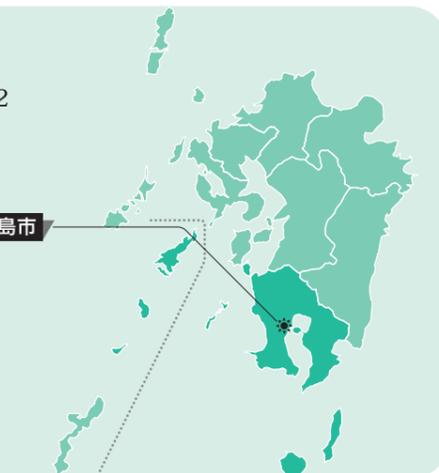
特定非営利活動法人

まご  
麻姑の手村

所在地…〒891-0416 鹿児島県鹿児島市慈眼寺町21-23-102  
 TEL…099-268-1198 FAX…099-268-1198  
 URL…http://www11.ocn.ne.jp/~mac-mura/  
 E-Mail…maconote-mura@jeans.ocn.ne.jp

代表者名…卓間光哉  
 設立年月…2003年2月 認証年月…2003年6月  
 有給スタッフ数…常勤4名、非常勤9名  
 事業規模(09年度決算収入)…10,317,394円  
 (内訳：入会金・会費・助成金等1,020,000円、  
 事業収入9,014,291円、その他283,103円)

鹿児島県鹿児島市



## 活動の目的・趣旨

よき相談役・理解者もなく子育てに孤軍奮闘する親、自立への道を求めてもがき苦しむ子どもたちをサポートする事業、高齢者や障害者の活動を補助する事業、子どもの自己実現や自立心などの育成を支援する社会体験事業などを通して、誰もが手と手を取り合う人間関係を紡ぎ、「夢があり、心豊かに暮らせる社会」を築き上げることを目指し、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ●フリースクールの運営

何らかの理由で学校に行けない、学校に行かない小・中学生を対象として、子どもたちの自由な活動を保障しながら、自立・自活・成長の支援をしている。

工場作業、スポーツ、農作業、学習などのカリキュラムを通して、何かをやってみたいと思う気持ちとその思いを継続するための体力・気力を育てている。

## ●まいらいふ事業

ひきこもりで苦しむ青少年(16歳以上)を対象にして、農作業やパート労働体験、農作物の生産・販売活動を実践し、心のケアと社会復帰を目指し、支援している。

## ●パソコン教室の運営

高齢者や初心者向けのパソコン教室。年賀状作り、インターネット、メール入門からパソコン検定への挑戦までをサポートしている。完全個別対応で個別の進度に合わせた学習が特徴である。

## ●高齢者・子育て支援事業

高齢者や障がい者の活動を補助する目的で、介護保険でできない部分のサポートを行っている。

その他、スポーツ交流会、キャンプなどのイベント、行政の勉強会に対する講師派遣などを行っている。

## 🌟ここに注目

生徒の社会適応訓練と団体の資金獲得を兼ねた野菜等の栽培・販売事業では、地域のショッピングセンター、県庁の売店に出店するなど、地域において徐々に存在感を高めている。高齢者や障害者支援など幅広い活動をしている。





Vol ②-4



子ども・大人の居場所づくり